



Q1：進行を遅らせる治療は（薬も含めて）ありますか

福祉課：「認知症の理解とケア冊子」（当日配布した冊子） P10～P11 をご覧ください。

右記二次元コードまたは下記をご覧ください。

<https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/63432.pdf>



Q2：障害者手当などで早いサポートが望まれると話されていましたが公的な面でその他にも、もっとこういう支援があった方がよいと思われることがありますか

福祉課：40歳以上の方であれば介護保険申請ができます。「初老期における認知症」として該当します。

※介護保険サービスを利用したい場合です。

就労支援を希望されるのであればハローワークへ相談するのもよいでしょう。

Q3：経済面の支援制度を知識として知りたい。

福祉課：生活を支える制度や支援 右記二次元コードまたは下記をご覧ください。

（社会福祉法人仁至会 認知症介護研究・研修大府センターより引用）

<https://y-ninchisyotel.net/support/hoken/>



Q4：薬にはどれくらい期待できるのでしょうか。物忘れ、認知症の判断が難しい中、病院にかかるタイミングと何科にかかれば良いのでしょうか。初期のタイミングを逃がすとどうなるのでしょうか

福祉課：薬については「認知症の理解とケア冊子」 P10 をご覧ください。

周りの方や本人が何かおかしいと気付いた時にまずかかりつけ医にご相談ください。

かかりつけ医が無い場合は、認知症疾患センターへの受診をお勧めします。

認知症疾患センターについて、右記二次元コードまたは下記をご覧ください。

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kenkouiryohukushi/koureisya/319087.html>

初期のタイミングを逃すと本人の不安が強くなったり、周りの理解が得られなかったりと生活に支障が出てきます。



Q5：認知症として物忘れが多くなってきたと言われていましたが重症化はあまりしないのでしょうか。

最近コロナのせいで人との接触が少なくなって、あまり出会わない人の名前が出てこなくなりましたがそれも認知症が原因でしょうか。

福祉課：周りの環境などによっては重症化することもあります。

名前が出てこなくなった場合、加齢による物忘れと認知症による物忘れがあります。

「認知症の理解とケア冊子」 P3～P4 をご覧ください。

下坂さん：先生でないのではっきりわかりませんが、治る病気ではないためいずれ重症化はすると思います。

Q6：最近の生命保険には認知症に対する保険がありますか。入っておられますか。検討されましたか。

デイサービスでの仕事に困ることは無いですか。利用者さんの行動、言動にイライラすることや戸惑うことはありますか、どんなことで戸惑いますか。

福祉課：最近の生命保険には認知症特約があります。

下坂さん：生命保険には入っていないです。生命保険については認知症になってからわかりました。デイサービスで困ることは、忘れることです。メモを取るなど工夫はしています。利用者さんの行動や言動

にイライラすることや戸惑うことはありますが仕事ですのでコントロールしています。

どんなことで戸惑うかは、帰宅願望（帰宅願望と言ってはいけないのですが・・・）です。帰りたいと言われて説明しても納得していただけない時は困ります。

Q7：46才のときアルツハイマー型認知症として診断され現在48才、淡々と会話（質問）に応じて話される姿に感動しました。誰にも会いたくない気持ちをふり切って1人で大きな病院へ行かれた勇気はどこからきているのですか。訪問介護職の奥さんの気付きが何故遅れたのですか。20数年間の職場に迷惑をかけられないと勇気を出して断られた事は辛かったと思います。よく公表されましたね。一家の家主として職業を選び、経済の為に一生懸命な姿今後も頑張って下さい。

下坂さん：必要に迫られ受診しました。おかしいという自覚はありました。妻の気付きが遅れたのは、今まで家では仕事の話はしなかったため、仕事でのミスなども話すことがなかったからです。受診したときは自覚がありましたがまだ周りの人はそれほど気付かなかったです。

Q8：認知症と診断を受けた時と現在で症状が進行したとか、あまり変わらない等、今の自分の症状がどのようなかは認識できるものですか。時間の間隔は、ゆったり流れていますか。自分が失敗したとわかることはありますか。今後、どんな人生ならいいと思いますか

下坂さん：自分の症状は認識できます。時間の感覚がなくなることや、症状として進行しているように思います。時間の間隔については、ゆっくり流れているように思います。以前働いていた魚屋さんではあくせく働いていたため今はゆっくり時間が流れているように思います。自分が失敗したとわかることについてはわかります。わからないままの場合もありますが、妻や職場から指摘されることがあります。失敗してもしようがないと思います。今後の人生については、治るものなら治りたい。治らない前提で楽しく自分らしく生きたいと思います。

Q9：認知症初期集中を受けるには、認知症と診断された方と書いてありますが、どこで診断を受けるのですか？ 高齢者の親がいます。体の病気で3か月に1回位入院しておりコロナ禍面会もできないので、気持ちの落ち込みがあり退院しても無気力で、ほぼ寝ているみたいです。家族は年相応だといいますがこのまま放っていたら、認知症になるのではないかと思います。嫁に出ているのですが、私はどうすればよいのでしょうか。何かをしようとしても実家からすれば余計なお世話の様になると思います。身動きがとれません。そんな私にアドバイスを下さい。

福祉課：初期集中支援での認知症の診断については、かかりつけ医が病名をつけてくれることもありますし、かかりつけ医から専門医（認知症疾患医療センター等）へ紹介され診断名がつくこともあります。 ※Q4をご覧ください。

下坂さん：アドバイスについては、本人にとって一番何が良いのかを考えてみてはいかがでしょうか。親は子どもといるだけや話せることがうれしいのではないのでしょうかと思います。

Q10：将来についての不安はありませんか。私よりしっかりされておられます。認知症の方とは思えません。今後いろいろあると思いますが、頑張って下さい。

下坂さん：進行していくので不安です。

Q11：認知症の進行を防ぐため、日頃から心掛けていること、取り組まれていることがあれば、教えてください。

下坂さん：診断を受けたとき、計算が出来なくなることや文字が書きにくくなることを思い取り組みましたが、先生からストレスになるのであればしない方がよいと言われました。仕事以外で人とつながることや他のことにチャレンジすることを心掛けています。特に当事者とのつながりはほっとできます。

Q12：認知症と診断されご家族もそのことを知られた時に、子どもさんたちの反応はいかがでしたか、差し支えなければ教えてください。また、今、お子さんたちはどのように支えて下さっていますか。

下坂さん：妻はショックだったようで、家から出ている子どもたちへは妻からそれぞれに伝えました。その時泣きながら電話をしたみたいで子どもから「しっかりして」と言われたようでした。子どもたちは普段通り接してくれています。

Q13：若年性の認知症は進行が早いと言われてはいますがいかが思われますか。先日、友人を亡くしました（若年性アルツハイマー型）。友人としてもっとしてあげられる事はなかったのかと思います。

今日はここまでどの様にしてお越しいただいたのですか

下坂さん：認知症の進行は早いと言われています。いつも頭の片隅にあり不安の一つです。しかし、他の人を見ているとそうでもないかなと思います。この会場までは電車と福祉課さんの迎えできました。

Q14：地域の人に望むこと、行政に望むことは何ですか

下坂さん：地域や行政に望むことは、若年性であっても高齢であっても認知症の方に対して地域で見守りますよと言う雰囲気大切だと思います。家族は家から出たくないと思われることもあるかと思いますが家族の肩の力が抜けるような地域になればと思います。本人の声を聴いて下さい。取り組みの中で当事者の方に入ってもらって下さい。

Q15：①認知症（症状）に効く薬はないのでしょうか？何らかの方法で治ることは（少しでもよくなる）ないのでしょうか？②講演（対談方式）を聞かせていただいて何ら「認知症の方」ということが感じられなかったが、日常生活の中で、認知症になると、どんな症状が出てくるのでしょうか→（話の中で、少しわかった。）また進行するのでしょうか。③現在介護職として仕事をされているということで「手当」は無くなるのでしょうか（減らされるのでしょうか。）

福祉課：①認知症の理解とケア冊子 P10～P11 をご覧ください。

下坂さん：②進行はします。日常生活の中で物忘れや見当識障害（時間、場所、人物の見当をつけ、自分の状況を理解する能力が障害されます。）、道に迷うなどが起こります。③減らされると言うことはありません。

Q16：家族はどのように接していったらよいのですか

下坂さん：今までどおり普通に接してほしいです。

過保護でなく危ないからと先回りすることなく見守って頂きたいです。

Q17：①趣味の写真はいつから（思い出の記録として行なわれているそうですが）ですか②写真による効果は何ですか③アルツハイマー型認知症での進行性ですか④昔の事は覚えているとのことですが魚の調理技術は忘れていないですか

下坂さん：①趣味の写真は高校の時からです。思い出の記録としては認知症とわかってからです。

②記憶変わりで思い出せます。忘れないために効果があります。昔から写真を撮ることが好きだったため今もできるし自信にもつながります。

③進行性です。

④魚の調理として23年の経験は身体に染みついているのでできます。しかし、魚の名前は忘れていません。

Q18：下坂さんが考えられる”認知症”という病気はどのような病気ですか

下坂さん：今まで積み重ねてきたこと、学校や家族のこと等覚えていたことを忘れ、できなくなっていく。

Q19：認知症になられての不安と今の自信はどうして出来ているのですか

下坂さん：不安や絶望はありましたが、今は当事者に支えられ出会えたことによって前向きになりました。ちょうど不安や絶望が減りバランスがとれているように思います。

Q20：若年性認知症との診断結果を告げられて以降1番困ったことは何ですか

下坂さん：治る病気ではないということと、魚屋を辞めなければならなくなったことで家のローンを払わなければと困りました。(経済面)

Q21：一人で生活されている認知症の方と接する事が多いのですが家族でないからこそ

- ①お互い様で出来る事、又はしてほしい事はありますか
- ②そこには触れてほしくない事などありますでしょうか
- ③地域での支え合いは必要と思うのですがいかがですか

下坂さん：①一緒に出かけたり、散歩したりご飯を食べたり、まずは信頼関係が大切だと思います。
②困っている事ばかりを聞かないでほしいです。
③地域での見守りは必要だと思います。

Q22：以前の魚屋では、人の名前が出てこないとか、聞いていた事を忘れるとかいろいろな仕事に支障が出ていたのですが現在の仕事でもいろいろな支障が出る事はあるのですか。

下坂さん：今も人の名前がでなかったり聞いたことを忘れてたりします。

Q23：①退職することを会社に伝えた時、担当の方はどのように言われましたか。

- ②継続する話は出ませんでしたか。
- ③現在、自身の認知症のことについては誰に一番相談していますか。

下坂さん：①大手鮮魚店で働き立ち上げたお店でした。「人手も足りないしいてくれたらいいやん」と言ってくれました。②継続する話は出ました。その時に、傷病手当の話など若年性認知症についての支援が会社としていただければよかったです。③当事者同士で話すと共感してもらえるし相談もできます。「最近こんななってきた・・・」等です。

Q24：下坂さんは現在デイサービスで働いておられますが、本日会場には介護サービス事業所の職員も出席しています。介護の仕事は大変だと言われますが、下坂さんから同じ介護現場の職員に対し、エール(メッセージ)をいただけましたら有難いです。どうぞよろしくお願ひいたします。

下坂さん：魚屋の時は福祉の仕事や地域包括支援センターのことなども知りませんでした。福祉の仕事は尊いし福祉の仕事をやろうと思いやられていると思うので志を大事にさせていただき誇りを持ってやっていただきたいです。家族も感謝されていると思います。

感想：私も認知症です。私の母親も50才で認知症になりました。私の母親は東京出身で大学を卒業しており優秀な母親でした。しかし50歳位で認知症を患い私も母の血筋を引いていると思います。いつも母親の事を思い出ししっかりしなきゃと過ごしていますが自分もそうなっているのかなと毎日不安を感じています。主人や子どもたちに励まされながら幸せな毎日を過ごしています。

感想：高齢者はまだ認知症の理解が進んでいない時代を過ごして来られているので、すごいマイナスイメージを持っています。だから自分が認知症だと思いたくなく、知ったときのショックがとても大きいです。そして「知られたくない」「迷惑かけたくない」と強く思っています。周囲の者(家族、近所の人)としては、みんなに知ってもらうことで誤解やトラブルをさけて支援してもらいたいと思いますし、困ったときには遠慮なく言ってもらいSOSを出してほしいと思いますが、そこが当事者の思いと合わなくて、どうしたらいいのか悩みます。